

# 祝 第57期生卒業式



## 地域医療の担い手を育てて半世紀 高山准看護学校 最後の卒業式と閉校式

3月5日、町文化センターにて「高山准看護学校 第57期生卒業式・閉校式」が行われました。最後の卒業生となる57期生10名は、教職員や関係者に見守られながら、看護の道への決意を胸に学び舎を巣立ちました。

同校は昭和43年の開校以来、半世紀以上にわたり計1,033名の卒業生を輩出し、地域医療の最前線を支え続けてきました。しかし、近年は少子化に加え、医療技術の高度化に伴う「大学志向」が高まり、全国的に看護師養成校の再編が進んでいます。かつては病院附属の学校で育てるモデルが一般的でしたが、現在は4年制大学への進学が主流となり、定員確保が困難になったことが閉校の背景にあります。

閉校式には歴代の学校長や卒業生も出席し、14年にわたり学校長を務めた小野一夫氏が創設当時の思い出を語られました。式の終盤では、長年生徒たちを見守ってきた校旗が町へと返納され、最後は出席者全員による校歌斉唱で、その輝かしい歴史に幕を閉じました。

式終了後、思い出の詰まった校舎には卒業生たちの笑顔があふれました。57期生が準備した思い出のアルバムや手作りの一問一答集などを眺めながら、恩師や旧友と当時を語り合う姿は、同校が育ててきた絆の深さを物語っていました。閉校は寂しいニュースですが、卒業生たちは高山准看護学校で培われた「人の命を思う崇高な精神」を胸に、これからも各地で地域医療を支え続けます。

# 高山准看護学校閉校式

